

1 年学年だより

安宅中学校 1 年学年だより
No,14 2021.11.26

心と体の健康講座

11 月 16 日（火）に心と体の健康講座が行われました。講師に、ゆたか助産院助産師の、吉田みち代先生を迎え、ご自身の助産師としての経験をもとに、命の誕生について、性についてお話をいただきました。生徒たちは、「一つの命が誕生する確率は 35 億分の 1。だからこそ命を大切にしてほしい。」「命を守るためにも、自分の性を大切にしてほしい。」といった吉田先生からのメッセージを受けて、自分の体、心、そして命について深く考えていました。

○生徒の作文

私は、弟が産まれてきたときのことをよく覚えています。でも、産まれるということを、考えたことはありませんでした。なので、話を聞いて、産まれるのは、とてもすごいことだと分かりました。35 億分の 1 の確率で自分が産まれてきたと知って、素敵だなと思いました。

産まれるということは、とてもすごいことで、でもほんの少しでも何かはずれると、ここに自分はいなかったと思うと、びっくりしました。今回の話で産まれることがどんなことが分かってよかったです。

女の人子どもを産むのはとても痛いと思っていたけど、お母さんはそれを赤ちゃんのために我慢して産むのはすごいと思いました。赤ちゃんが産まれてくる日を決めると初めて知りました。赤ちゃんは考えているのだと思いました。

僕は、この機会に生命のことについていろいろ学べました。子供を産むお母さんの気持ちや、親になる覚悟など初めて聞いた話ばかりでびっくりしたことがすごく多かったです。今僕がいるのは、お母さんのおかげで 35 億分の 1 の確率で今いるわけで、産んでくれたお母さんや育ててくれた身近な人に感謝していこうと思いました。

吉田みち代さんの話を聞いて、「人は最初全員女だった」ということを知ってびっくりしました。改めて、お母さんは強いなと思いました。「赤ちゃんのためなら、私なんてどうなってもいい。」というお母さんの気持ちは、本当にすごいし、カッコいいなと感動しました。

吉田先生の話聞いて、私やクラスみんながいることは奇跡なんだと感じました。その確率が 35 億分の 1 ということにとっても驚いたし、命をつなぐことはとてもすごいことだと知れました。そして、性と生命について考えることができたと思います。話を聞いて助産師に興味を持ったし、助産師はカッコいい仕事だなと思いました。私を産んでくれたお母さんに感謝したいです。



私は今日、性や命、命が誕生したときの思いや、気持ちなどを考えることができました。まず、赤ちゃん産まれる、産むというのは、すごく人生においても大きな出来事で、赤ちゃんが生まれたときの嬉しさや、感動する気持ちは私たちが想像するより遥かに大きいだろなと思いました。それに、私たちは 35 億分の 1 の確率でしか生まれることができないと知って、そんなに少ない確率でも生まれてきてよかったって思えたり、お母さんやお父さんに感謝したいと思いました。

人間に男と女という性別があることも、生まれてくる確率が 35 億分の 1 なのもすごいことで、自分が産まれてきたこともすごいと思いました。赤ちゃんが産まれるためには、母親だけでなく父親、助産師、それから赤ちゃん自身も関わっていてすごいと思いました。そして、一人が生まれるのにいろんな人が関わっているからこそ、一人一人のことを大切にしたいと思いました。

生きるための命を繋ぐ性は、とても貴重で尊いものだ分かった。自分が今、この世に生きているのは 35 億分の 1 の確率で、ここにクラスみんなが集まっていることは奇跡だということも分かった。みんな生きているけど、形は違うし、性格も違う。それでもみんな命を繋ごうとしていてすごいなと思った。家に帰ったら、お父さんとお母さんに話を聞きたい。

僕が産まれているってことは、母さんがとても痛いのに僕をがんばって産んでくれたからだと分かりました。だから、母さんに感謝の気持ちを持って生きていきたいです。人が生まれてその中で、僕を産んで、とてもすごい確率だけど、僕を産んでくれてすごいです。

講座を受けて、助産師は 24 時間対応するのがすごいと思いました。生まれる前の赤ちゃんは、水の中にいて、へその緒で呼吸していることに驚いたし、人間は最初全員女だったことにも驚きました。これからは、自分らしく生きていきたいと思いました。

